

大通公園を望む窓辺から

猪と里芋の マルチプロダクション考察

常任理事 岡部 實裕

年も改まり、今年は亥年。昨年一年間の世界動向を振り返っていた折、宇宙物理学の世界的リーダーとして活躍される佐藤勝彦学術システム研究センター長が瑞宝重光章を受章された記事を目にした。佐藤先生は、1981年にビックバン理論を補う「インフレーション」理論を発表された。宇宙は「真空のエネルギー」によって急激に膨張し、母の宇宙がインフレーションを起こすと、なんと、そこから「吹き出物」のように子宇宙、そして孫宇宙が生まれるという理論であった。それらを繋ぐワームホール（時空の虫食い穴）は、やがて切れて子は親宇宙から独立するという「宇宙のマルチプロダクション」も説かれた。

宇宙は、里芋のマルチプロダクション？とうりふたつだね。猪も里芋が好物で作り手に励んでいるのかな。量子論に無知な私たちにとっては、宇宙物理学のミクロとマクロの体系は「まるで哲学的！」とも言える。哲学の音楽化を志向したとされるリヒャルト・シュトラウス（交響詩「ツァラトゥストラはこう語った～ニーチェに自由に従った」）なら、佐藤先生の宇宙物理論をどのように交響詩で音楽化したのだろうか。

哲学というと、エルヴィン・シュレーディンガー（1933年ノーベル物理学賞受賞）が思い浮かぶ。第1次世界大戦後、哲学への転身を決意したが、敗戦国オーストリアには哲学者の職はないこともあり、物理学にとどまり、「波動力学」の体系を創り上げた。しかも、彼は量子生物学を切り拓いた重要な一人と評価されるに至った。私たちも若い医学徒の頃には、セントラル・ドグマの礎を築いたワトソン、クリックも影響を受けたという「生命とは何か―物理的にみた生細胞―」（1944年）に夢中になったものだ。ナチスの難を逃れて、アイルランドのダブリンに行き、そこで公開連続講演を行い量子物理学の視点から生命観を述べたものを出版したと言われている。

アインシュタインらも追放になっている。だが「量子論の父」プランク（1918年ノーベル賞）は、ヒトラーに直接抗議。ナチス政権下においても亡命せず、1944年には次男がヒトラー暗殺計画に加担したため「国賊の父」と揶揄され、不遇に貶められたという。

亥年が平和な世界へ踏み出す年であることを願いたい。そのためにも、猪と里芋のマルチプロダクション？に喩え、母芋としての私たち世代の役割を果たすためにも、次世代に「エネルギー」を与え、大切に育むことにしよう。

永年勤続30年

理事 文屋 学

30年前、地域住民の健康管理を目指す generalist と消化器病の specialist として地域医療に貢献したいという高邁な（青臭い）目標を持って、当地で開業いたしました。

滝川市の南東、すぐ隣は空知川を挟み、砂川市です。

当時周辺はタマネギ畑ばかりで、その一部、500坪に有床診療所を開業いたしました。縁もゆかりもない土地で、数億円の借金をしてのスタートでした。

開院当初は患者は数人、不安で眠れない日々が続き、ストレス解消の目的で土手の向こうの河川敷を走り始めました。

その後、次第に悩みは解消されましたが、気がつくると走るという行為は、体内時計に刷り込まれ、どこでもいつでも、二日酔いでも走る。さらに大会に出場し、好タイムが出るとますます走るという悪循環が襲います。

旅行や学会、講演会で地元を離れても、サングラスやトレーニングウェア、靴、靴下等の入ったランニングバッグは必須アイテムです。

海外旅行に行っても必ずホテル周辺をランニングしますが、時には危険な状況に追い込まれることも。

香港では朝、公園近くを走っていると、太極拳を邪魔されたと勘違いされ怒鳴られたことや、ホーチミン市では貧民街に入り込んで、路上で大麻？を吸ってか朦朧として排尿中の女性の夫？に追いかけられたこともありました。

しかしそれ相応の年齢になり、公の仕事が増え、会議等で貴重な時間が割かれ、それに反比例して、練習時間が減り、タイムも凋落傾向です。

むろん加齢による落ち込みが最大の原因でしょうが…。

尊敬するH先輩、今でもフル3時間台のT院長、タイムを維持するコツをぜひご伝授いただきたいと思います。

先日、滝川市医師会主催の永年勤続表彰式で式辞を述べました。「5年以上の永年勤続者62名中30年以上勤務は10名であり、長年のご努力、ご精進には本当に頭が下がる思いです。本当にご苦労様でした」…。

私も「本当に頑張ったね」と自分で自分を褒めてあげたいです。

